子どもを地域の宝として育てるために

～「須佐地域協育ネット」の取組～　　【萩市　須佐中学校区】

地域の概要

須佐中学校区は、山口県の北部に位置し、地域の南側は島根県津和野町、山口市阿東に接しています。地域の基幹産業は、農業と漁業が中心で、過疎高齢化など多くの問題を抱えています。校区内は南北に長く、保育園２園、小学校２校、中学校１校があり、須佐中学校は、スクールバスで通学しています。

人　口	2,943 人	
世帯数	1,403 世帯	
対象校及び児童生徒数	須佐中学校	72 人
	育英小学校	100 人
	弥富小学校	16 人

組織の内容

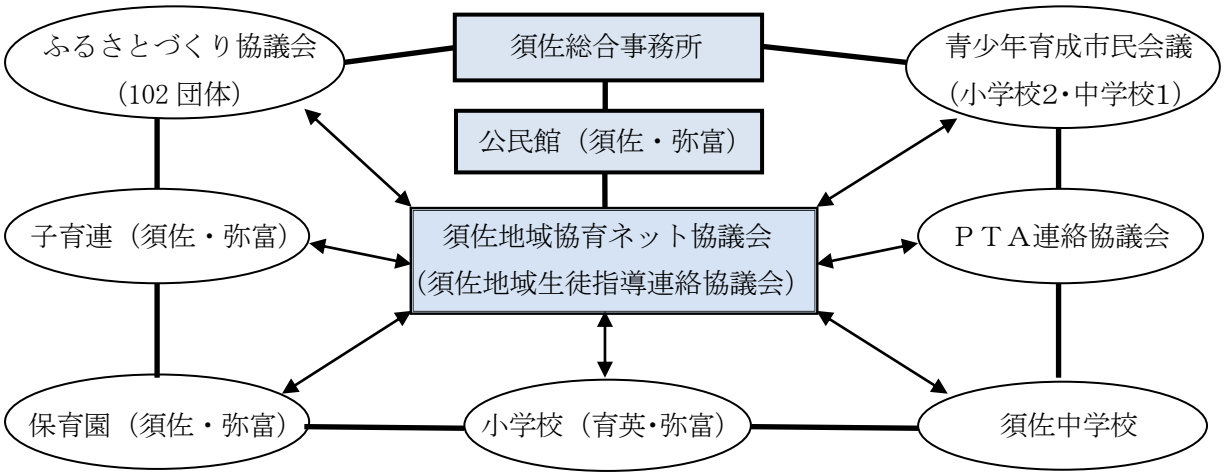
次代を担う子どもたちを「地域の宝」として育てるため、須佐地域協育ネット協議会は生徒指導連絡協議会（事務局／公民館）を中心とし、ふるさとづくり協議会や須佐地域青少年育成市民会議、子ども会育成連絡協議会、ＰＴＡ連絡協議会、保育園、小・中学校などの組織が連携し各種活動を展開しました。

今年度は、７月 28 日の山口北部豪雨災害により多くの被害が出ましたが、お互いが被災者でありながらも、大人も子ども復旧・復興という大きな課題を抱える中で、「今できること」に趣を置き組織をまとめました。特に須佐保育園、育英小学校、須佐公民館、須佐総合事務所は、被災施設となり数か月は機能を失っていましたが、須佐保育園を除き、機能を徐々に回復しつつあります。このような状況下の中、組織的には、不十分な一年目ではありましたが、大災害という共通する大きな試練をみんなが経験することで、大人も子どももお互い助け合うという連携ができたことは、形にこだわらない組織づくりをすること以上の成果でした。

これを機に二年目は、今年度の経験を生かし、あまり形にこだわらない組織づくりを考えていく必要性を感じました。

自主的なボランティア活動をする子どもたち

【組織図】



特色・重点的な取組

過疎化・少子高齢化が進む須佐地域において、次代を担う子どもたちを育成することは必要不可欠なことであり、大きな課題でもあります。

少子化の中、「子どもは地域の宝」と長年言われているものの、今まで子どもたちに期待はしても、十分に教えてこなかったのが事実です。須佐地域協育ネットでは、この反省に基づき、各種団体の連携の下、できるだけ多くの社会体験を通じ、子どもたちの思いやりや郷土愛に富んだ心を育てる取組を行いました。

主な活動の紹介

○地域協育ネット協議会打合せ（６月６日）

須佐地域協育ネットについて説明、須佐地域生徒指導推進協議会を母体として発足を予定。

○第１回須佐地域協育ネット協議会の開催（７月 11 日）

須佐地域協育ネットの具体的取組について協議

○山口北部豪雨災害　これ以降夏行事すべて中止（７月 28 日）

○幕末体験「育英塾」の開催（10 月 18 日）

地域内小学６年生を対象に地域の歴史体験学習として、育英塾を開催。今年は、資料館被災のため会場を大蓮寺に変更、指導者は、地域の方（郷土史研究会）がこれにあたりました。

○「元気もりもり祭り」開催（11 月３日）

当初、豪雨災害により中止した夏の子どもイベントを再開するという意味で計画された公民館まつりが、保育園や学校、ふるさとづくり協議会加入団体等が次から次に集い、当初予定した行事が拡大し、「元気もりもり祭り」として開催しました。

・子どもオープニング行事（保育園／遊戯・太鼓、小学校／合唱・歌・劇・太鼓など）
・子ども夜店体験（子ども会）
・ニュースポーツ体験（スポーツ振興会）
・映画上映会「ロラックスおじさん秘密の種」（青少年育成市民会議）

元気よくオープニングを飾る子どもたち

○弥富子ども大会（12 月 22 日）

弥富地区の子どもたちが企画・立案した、子どもたちのイベントを開催しました。

成果と課題

山口北部豪雨災害により多くの被害を受け、一時期は何も事業が実施できず終了するのではと懸念されましたが、お互いが被災者でありながらも、子どもも大人も復旧・復興という大きな目標に向かい動き出し、連携や一体感という生の体験に遭遇しました。結果的に、少し遠回りでしたが良い方向に動き出したことは大きな成果です。机上での組織づくり以上に、活動実践による組織づくりは人を動かすことを痛感しました。

今後の取組

今年度の貴重な体験を踏まえ、地域協育ネット協議会でもう一度しっかり振り返り、次年度の活動計画に生かしていくことが必要です。また、学社連携が以前に比べ希薄になりつつあるので、お互い忙しい中ではあるが密接な連絡調整をする必要性を感じています。須佐地域の子どもたちを地域でどのように育てるかが、今後の須佐地域の課題であることを肝に銘じて取り組みたいと思います。